

第11回 国際化推進専門委員会議事概要

1. 日時：令和元年5月28日（火）10：00～11：00
2. 場所：文部科学省研究交流センター 2階第1会議室
3. 委員：委員：田中委員長（筑波大）
塩原委員（物材研）、谷口委員（産総研）、永友委員（JICA）、
五味田委員（KEK）、齋藤委員（代理出席：大森様、国際農研）、
神田委員（代理出席：芦田様、国総研）、
広瀬委員（代理出席：中川様、JISTEC）、村山委員（つくば市）
オブザーバー：國谷研究員（一般財団法人 総合科学研究機構）
岡部理事長（一般社団法人 グローカルコミュニケーションセンター）
事務局：稲葉事務局長、田中（記録者）

4. 議事（○：委員発言、●：事務局発言）

（1）筑波外国人交流に関する調査について（報告）

本調査に協力をいただいた（一財）総合科学研究機構の國谷研究員から調査結果について説明があった。

- ・アンケートの分析（連携・交流の課題・要望等、受入れや生活環境に関する課題等、住居の確保に関する課題等）
- ・インタビュー等の分析
- ・住宅状況の調査

（2）国際化推進専門委員会の検討結果報告（案）について（審議）

《会員機関の国際諸活動の調査》

⇒上記（1）の調査結果について、会員機関の個別情報を明らかにしない形で筑協ホームページに公開することになった。

《委員会の目的の再整理（委員会の廃止）》

○産学官連携委員会も平成30年度に廃止した。委員会の目的が今の筑協の中で必要かどうか議論すべきで、必要ないものはスクラップ・アンド・ビルドすることは良いことである。廃止とする場合は、筑協の幹事会、総会にかけていくのか。

→6月18日の幹事会、6月28日の総会にかける。

○昨年度は委員会の開催が1度もなかった。また、昨年度、外国人研究者受入れに関する調査を行ったところ、確かに筑波研究学園都市の国際化について、特に生活のレベルでの問題点がないわけではないが、それぞれの組織ごとの個別のものが多く、今、筑協の委員会として集まってこの問題を解決していくことが有効な手段なのかという疑問を持つところ。そういう活動が本当に必要なのかという問題があると思う。この委員会が創設されたときに考えられたことはもう済んでいるのではないかと思われる。

○委員会を閉じるにあたって、集大成として、何か記録として残していくのはどうか。委員会の活動記録を公開するなりして、委員会の3つの目的（国際化拠点形

成のための調査等、世界の研究学園都市との交流及び世界のへPR、筑波研究学園都市に滞在する外国人研究者等の生活環境整備）を達成したという意味で、役割を終えたんだなと理解してもらえるのでは。

○それぞれの目的に対して、現状を述べるような総括はできるのではないか。

●どういう形で発信していくか、委員長と相談して幹事会総会にあげていく。

○廃止の場合、いつ廃止になるのか。

●6月28日の総会の決定をもって廃止になる。

⇒当委員会は一旦廃止することとし、必要が生じた場合は委員会の設置を検討するという事で幹事会、総会にかけることとなった。

(2) その他

○（今回報告があった）調査の中で、つくば市への要望が見受けられるが、今後市に対する要望活動などはあるのか。要望を出す場合は、個別の機関からの要望ではなく、筑協の要望として提出してほしい。

●出し方は検討する。

以上